

2018 年度 F D 実施報告書

学部・学科	キャリア開発学科
<p>FD 取り組みへの理念・目標</p> <p>本学科は学内（FD 委員会、FD 推進委員会、FD 推進センター、他学部・他学科、事務局）および学外（企業、高等学校、大学など）との有機的な関連・連携を深めることにより、FD の一層の推進・強化を図る。</p> <p>また、FD の効果は、学生の教育に還元されることはもとより、教職員の業務の効率化に資するものを目指す。</p>	
回数、期間、実施日等	実施事項・内容、実施組織、評価項目等
	<p>1. 教育ワークショップの実施</p> <p>本ワークショップは、月例として学科会議前に教育ワークショップを実施し、その結果を学科の FD の推進、入試の志願者対策、就職対策などに役立てるものである。</p>
<p>第 1 回 4 月 5 日</p>	<p>テーマ「入試結果の報告とその他」（入試広報部 入試課 塚田昭人 課長）</p> <p>平成 30 年度入試を振り返り、総括を行った。また、今後の対策、課題について意見交換を行った。</p>
<p>第 2 回 5 月 7 日</p>	<p>テーマ「平成 29 年度内定者最終報告及び今年度計画について」</p> <p style="text-align: right;">（学生部 就職支援課 岡本健人 係長、横倉紗希 課員）</p> <p>過去 3 年間の卒業生の就職活動状況、本年度の就職支援内容、企業情報などについて、意見交換を行った。</p>
<p>第 3 回 6 月 7 日</p>	<p>テーマ「同窓会と学科の連携について考える」</p> <p style="text-align: right;">（短期大学部同窓会 黒木晶子氏、中山百合子氏、小山田恵美氏）</p> <p>同窓会向けの講座を 2016 年度から開講しているが受講者が少ないこともあり、これからの同窓会と学科の連携の在り方について意見交換を行った。</p>
<p>第 4 回 7 月 5 日</p>	<p>テーマ「学生募集について」（入試部入試課）（入試広報部 入試課 塚田昭人 課長）</p> <p>本学科の志願者推移状況や、学生募集についての説明があり、意見交換を行った。</p>
<p>第 5 回 8 月 2 日</p>	<p>テーマ「就職状況について」（学生部就職支援課）</p> <p style="text-align: right;">（学生部 就職支援課 横倉紗希 課員）</p> <p>前学期までの 2 年生の就職活動状況について、報告があった。また、夏期休暇中の就職支援内容や、後学期へ向けての注意点等が示された。</p>
<p>第 6 回 9 月 13 日</p>	<p>テーマ「PC 必携後の課題について」</p> <p style="text-align: right;">（学術情報部 情報システム室 塚元富一郎 室長）</p> <p>本年度より N-note の必携化が始まったため、室長から発生したマシントラブルの状況などを聞く一方、岸川先生から学生と教員を対象に実施した N-note に関するアンケート</p>

<p>第 7 回 10 月 4 日</p>	<p>ート結果の発表があり、それらに基づき意見交換を行った。 テーマ「国際交流と留学支援について」 (学生部 国際交流・社会連携課 坂口咲子 課長) 本学の国際交流と留学支援の取り組み状況などについて説明があり、意見交換を行った。</p>
<p>第 8 回 11 月 8 日</p>	<p>テーマ「LGBT 支援の現状と課題について」 (学外 GS : NPO 法人 Rainbow Soup 理事長 五十嵐ゆり 氏) LGBT の定義に始まり、支援の現状と在り方、また今後の課題について説明を受け、意見交換を行った。</p>
<p>第 9 回 12 月 3 日</p>	<p>テーマ「就職状況について」(学生部 就職支援課 横倉紗希 課員) 11 月までの就職内定状況について、報告があった。また、引き続いての支援内容や注意点等が示された。</p>
<p>第 10 回 1 月 10 日</p>	<p>テーマ「地域社会と連携した教育活動の促進について」 (学生部 国際交流・社会連携課 坂口咲子 課長) 糸島の耕作放棄地再生プロジェクトを始めとする本学の地域と連携した教育活動について報告があった。それを受けて次回の教育ワークショップでは、県の担当者を招いて、詳しい話を聞くことになった。</p>
<p>第 11 回 2 月 5 日</p>	<p>テーマ：「福岡県が実施しているフィールドワークの現状について」 (学外 GS : 福岡県企画・地域振興部 広報地域振興課 主任主事 向井雄哉 氏) 福岡県における地域振興の取組みとして、広域的な地域振興と耕作放棄地再生プロジェクトについて説明を受けた。また、本学が取り組んでいる耕作放棄地プロジェクトの今後の課題等について、意見交換を行った。</p>
<p>第 12 回 3 月 6 日</p>	<p>テーマ「2019 年度の教育ワークショップ年間計画について」(本学科) 来年度のワークショップ計画案が示された。</p>
<p>第 1 回 5 月 14 日 第 2 回 10 月 15 日</p>	<p>2. FD 研修会の実施 全学的な「学生による授業アンケート」結果を学科内でオープンにし、授業改善のための研修会を実施した。学科主任、FD 推進委員 (1 名) が運営にあたった。本研修会では、学生による授業アンケートの結果はどうだったのか、授業改善をどのように実施したのか、その結果、学生の評価はどのように変化したのか、また今後の授業改善計画について、各教員から担当の授業科目毎に報告してもらった。併せて、今後の授業改善のための数値目標を述べてもらい、それらについて意見交換を行った。 テーマ「平成 29 年度後学期の結果による授業改善の結果と今後の計画」 テーマ「平成 30 年度前学期の結果による授業改善の結果と今後の計画」</p>

<p>4月～3月、 月1回（原則 第3または第 4月曜日）全 11回実施</p>	<p>3. プロジェクト研究会の実施</p> <p>本学科では、平成29年度より新カリキュラムがスタートしたことを受け、プロジェクト研究として「新カリキュラムにおける効果的な指導法と成績評価基準に関する研究」を研究課題として取り組んでおり、平成30年度は2年目であった。本プロジェクト研究の成果としては、専任教員のゼミナールを除くすべての授業でルーブリックを整備する一方、「インターンシップⅡ」「おもてなし研修」の効果的な方策等についても探求を行い、本学の研究紀要に論文を掲載した。本研究会の実施により、プロジェクト研究に関する情報共有や進捗チェックを行い、研究に遅滞がないようにすることができた。</p>
<p>原則随時</p> <p>6月の第2週 と第3週の2 週間</p>	<p>4. 保護者等への学科の通年授業公開の実施</p> <p>本学科では、全学での実施に加えて、保護者なども対象に授業公開を実施した。しかし、残念ながら保護者の参加はなかった。</p> <p>また、ゼミナールⅡの授業を、本学科1年次生対象に、授業公開またはオープンゼミとして実施した。この狙いは、ゼミナールのFD推進、および1年次生のゼミ選択の参考に供することであった。</p>
<p>第1回 9月5日</p>	<p>5. 福岡工業大学短期大学部と連携した合同FD研修会等の実施</p> <p>本研修会は、福岡工業大学短期大学部と本短期大学部との交流協定に基づくものである。本研修会の推進に本学科は積極的に取り組み、ほとんどの本学科教員が参加した。</p> <p>第1回（於福岡工業大学短期大学部）</p> <p>テーマ 「教職員の意欲向上～短大における授業・教育力改善のために」</p> <p>研修内容 《第1部》 研修① 「意識改革体感セミナー～意識を変えれば『人生・仕事の成果』が大きく変わる～」 合同会社思考プロセス研究所 宮崎 孝三 氏</p> <p>研修② 「意欲向上に関する意見交換」 《第2部》 研修③ 「教職員・学生のコミュニケーション向上のための施設の見学とその利用」 福岡工業大学短期大学部 教育改善委員長 小田 誠雄 氏</p> <p>幅広い学力層やさまざまな学習履歴を持った学生に、効果的な授業を実践し、その効果の検証を行い、さらに授業改善を加えていくことは、大学教員の責務である。しかしながら、その責務を担う教員自身が教育に意欲を傾け、学生指導へのモチベーションを高めることができなければ、「良い授業」は望めない。多忙な中で、教員自身が積極的に教育に当たる意欲を高めるにはどうしたらよいかを考えることを目的に実施した。</p>

<p>第 2 回 3 月 12 日</p>	<p>第 2 回 (於本学)</p> <p>テーマ 「学びのユニバーサルデザイン (UDL) の理論と実践」</p> <p>研修① 「学びのユニバーサルデザイン (UDL) の理論」 福岡工業大学短期大学部 藤井 厚紀 氏</p> <p>研修② 「福岡工業大学短期大学部における授業実践について」 ・簿記・会計科目群における習熟度別クラスについて選択肢を設けた事例 福岡工業大学短期大学部 石橋 慶一 氏 ・数学科目の反転授業の事前学習用コンテンツについて選択肢を設けた事例 福岡工業大学短期大学部 上村 英男 氏 ・PC スキル系科目における授業内での学習方法について選択肢を設けた事例 福岡工業大学短期大学部 藤井 厚紀 氏</p> <p>研修③ 討議および質疑応答 文部科学省の平成 30 年度学校基本調査 (速報値) によると大学・短期大学の進学率は 57.9%と前年度より 0.6 ポイント上昇して過去最高となった。このようなユニバーサル段階に移行した中で学生の目的意識の希薄化や学習意欲の低下等、学生の多様化により大学側の対応の困難性が増している。このような課題に対して近年、初等中等教育において注目が高まっている「学びのユニバーサルデザイン (UDL)」の理論とそれに基づいた福岡工業大学短期大学部における実践事例について報告し、今後の展望や課題について議論と共有を図ることを目的に実施した。 なお、今回は大学から 3 名の出席があった。</p>
---------------------------	--

「教育システム改革 2014 (FD2014)」の進捗状況

項目	主な実施内容	進捗状況	補足説明
授業科目の組織的な管理	ルーブリックの導入	<input type="checkbox"/> 未着手 <input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 実施済	学科専任教員担当分の科目については、ゼミナールを除き導入済みである。平成 30 年度は、非常勤の担当科目への導入を予定していたが、実施することができなかった。
教員の教育力に対する評価の導入	授業アンケート結果の組織的な活用	<input type="checkbox"/> 未着手 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 実施中 <input checked="" type="checkbox"/> 実施済	本学科 FD 研修会にて、データを学科内で公開し、授業改善目標の数値化を図るとともに、意見交換を行った。また、一部の科目で中間の授業アンケートも実施しており、これから検証を行っていく予定である。
教育方法の改善	アクティブラーニング (特に PBL) の推進 PBL: 課題解決型授業	<input type="checkbox"/> 未着手 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 実施中 <input checked="" type="checkbox"/> 実施済	フィールドワーク分野の開設を始め、来年度はプロジェクト研究の研究課題にも関連することから、地域貢献を特に意識して取り組んでいく予定である。